「松方コレクションとパリの画商――INHA所蔵のレオンス・ベネディット資料の紹介(2)」

陳岡めぐみ

本稿は「松方コレクションとパリの画商――INHA所蔵のレオンス・ベネディット資料の紹介(1)」に続くものである[1]。前稿では、パリの国立美術史研究所(INHA)のベネディット資料(BCMN Ms 375/6/5/1～6/5/3)にもとづいて、1918年秋頃に川崎造船所初代社長・松方幸次郎(1866-1950)がパリのレオンス・ベネディット(1859-1925)を通じた収集を開始してから、1921年春頃に再渡欧するまでの時期をとりあげ、二人が神戸とパリのあいだで頻繁に手紙や電報を交わしながら、収集を進める様子を浮かび上がらせた。

本稿では、松方がパリを中心とする画廊に実際に足を運んで数々の重要な作品を購入した1921年半ばから1922年初頭にかけての時期を扱う。近年公刊された和田英作(1874-1957)の日記(以下、「和田日記」と記す)の記述などから、8月末から9月にかけて松方がパリ滞在中の日本人たちと連れ立って画廊巡りをしていた様子は知られている[2]。一方、INHAのベネディット資料からは、松方は6月末にパリに到着して早々、画廊巡りを始めていたことがわかる。その様子は、パリ、ロンドン、ニューヨークに支店網をもち、松方の動きを追っていたノードラー画廊の支店間の通信の中でもしばしば言及されている。本稿では、ノードラー画廊のアーカイヴ、「和田日記」、そして国立西洋美術館が近年入手した画商資料などで情報を補完しつつ、INHAのベネディット資料とともに、1921年を中心とするパリの画廊での松方の購入の概要をたどる。

パリ到着

1921-1922年の松方の旅の概要は次のようなものである。4月14日に日本を出発、ニューヨークとロンドン滞在を経て、6月後半にパリへ到着。7月後半には北ヨーロッパをめぐる旅に出発する。8月末にパリへ戻った後、9月後半に再びロンドンへ発ち、12月初め頃にニューヨークへ移動、翌年2月10日に帰国した[3]。

松方とベネディットはパリ到着前から連絡を取り合っており、INHAのベネディット資料には6月3日、6月18日の日付を持つベネディットから松方宛の手紙の草稿が残る[4]。そこでは、シャルル・コッテの大作やエティエンヌ・ディネのサロン出品作の購入、およびブールデルやロダンの鋳造、ロダン美術館で松方のためにレセプションを開く計画などの報告のほか、ムードンのロダン旧宅や、モーリス・ドニ、モネのアトリエの訪問などが提案されている。これに対してロンドンから松方は、6月22日にパリに行くことを6月15日付の電報で知らせている[5]。そして6月末以降は、松方-ベネディット間の手紙類に代わって、画商との通信や、請求書や領収書などの作品購入や輸送をめぐる実務書類が増えていく。

INHAのベネディット資料における画商からの請求書関係の資料の内容は本稿末に記載した。後述するように、代金支払いの時期が主に2回に分かれたと考えられるため、便宜上、［資料1-1］と［資料1-2］に区別した。また、1922年2月9日付のタンプレール画廊からの請求書はどちらのグループにも属さないため、別扱いとし、［資料2］として記載した。請求書の日付は大きくは1921年7月、9月、11月に分けられるが、松方に代わって支払いを進めるベネディットと成瀬正一（1892-1936）によって画商たちから集められた松方宛の請求書の写し（copie, duplicata）も含まれている。成瀬正一は十五銀行頭取成瀬正恭を父に持ち、1921年4月から1924年4月にかけてフランス文学研究のために夫婦でフランスに滞在し、松方のパリでの収集にも協力した。妻の福子は川崎造船所副社長の川崎芳太郎の長女である。

ノードラーとデュラン=リュエル画廊については、前者はロダン美術館に作品を搬入した際の1921年11月10日付の作品受領証（価格付き）、後者は同年10月27日付の請求書を国立西洋美術館が近年入手した。参考として、これらの内容は［資料3］として本稿末に記載した。

手紙や請求書の宛先から、パリにおける松方の前半の滞在先はヴァンドーム広場近くのムーリス・ホテル、後半はオペラ座近くのグランド・ホテルであることがわかるが、いずれも主要な画廊が徒歩圏にある好立地である。パリに到着した松方はベネディットともに画廊を足繁く回り、購入やリザーヴを始めつつ、要望を伝えるなどして画商たちとの間で情報を交換していたのだろう。前半のパリ滞在の終わり頃、ベネディットがロンドンの鈴木商店に宛てた7月21日付の手紙の草稿には、「松方氏はパリ滞在中に多数の美術作品を購入しました」[6]とも記されている。また、ノードラー画廊のパリ・ニューヨーク支店間の7月8日付の通信では、松方とベネディットとともに昼食をとったことや、松方は6週間ほどロンドンに滞在した間、「誰かに捕まって、ベネディットがここでそうしているように連れ回されていたに違いない」[7]という憶測が記されている。

7月後半[8]、松方は日本海軍の密命を帯びていたともいわれる北ヨーロッパ方面を周遊する旅へ出発、この間にもベルリンのカッシーラー画廊などで作品購入を続けているが、この時期に関する詳しい情報はINHAのベネディット資料には含まれていない。一方、9月の日付をもつ多数の請求書の内容からは、8月末にパリへ戻った松方が再び熱心に画廊を巡り、おそらく夏の間に新たに準備された作品なども見つつ、購入の確約をしていった様子が浮かぶ。その後、ベネディットと成瀬は松方に代わって支払いの準備を進め、作品は続々とロダン美術館の一角に搬入されて保管されていった。

9月から11月の請求書の出元の画廊には、7月分の請求書が残るアラール、ベルネーム・ジュヌ、ジョン・レヴィに、ジョルジュ・ベルネーム、ローザンベール、デュラン=リュエル、ノードラー、ジョルジュ・プティ、ドリュエが加わっている。いずれもパリの有力画廊だが、作品価格の総額で見ると、デュラン=リュエルが1,250,000フランと群を抜いて高く、ジョン・レヴィが700,000フラン以上、ベルネームとローザンベールがそれぞれ400,000フラン以上の高額の請求額である。購入作品はマネやクールベから、モネ、ルノワール、ゴーガンなど、すでに評

価の高い19世紀の近代絵画が中心だが、ドニやマルケ、マティス、ボナールなど同時代に活躍中の画家たちの作品も目を引く。以下、主要な画廊ごとに購入の概要を見ていきたい。

デュラン=リュエル画廊

前稿に記した通り、印象派の支援者として名高いデュラン=リュエル画廊との間では、松方とベネディットはすでに1920年から、ルノワールとピュヴィス・ド・シャヴァンヌの重要作品、おそらくはそれぞれ《アルジェリア風のパリの女たち》（M917）と《貧しき漁師》（M891）の価格交渉を進めるなど、松方の渡米・渡欧に向けた準備をおこなっていた[9]。

パリに到着した松方は早々に同画廊を訪れて前金を支払っているが、おそらくはこの2点のリザーヴのためであろう。国立西洋美術館が所蔵する10月27日付の請求書には、上記の2作品を含む13点が記載され、「1921年7月7日に支払いを得ている」と注記され、20,000フランが差し引かれていた[10]。［資料3］　これについては、ベネディットがいつものようにロンドンの鈴木商店に対して購入作品の個別の支払いを請求した形跡がないことから、松方本人が画廊を訪れて、昨年から価格交渉をしていた上記2作家の作品を実見した上で前金を支払ったと推測される。

また、近年のオークションに出されたデュラン=リュエル画廊から松方宛の1921年11月10日付の請求書[11]は、上記の10月27日付の請求書にフィールディング《ターベット、スコットランド》（M465）1点が追加された内容であった。INHAのベネディット資料には、日付や内容の一致から、この11月の請求書がロンドンの松方に送られた際の送付状と考えられる手紙が残っている。

> 「成瀬氏の指示にしたがって、あなたがパリに来られた際に購入された作品の勘定書をお送りします。また、5,000フランのコプリー・フィールディングの絵を追加しておきます。ご確認の上、これを成瀬氏にご返送いただき、代金をお支払いいただければ幸いです。」[12]

追加購入されたイギリス・ロマン主義の風景画家フィールディングの作品は、デュラン=リュエル画廊のニューヨーク支店から売却されたものである[13]。日本を出発した松方が最初にニューヨークに滞在した時期に作品を目にしていたのだろうか。また、この手紙からは、画商からの請求書類は松方にいったん送られてその了承を得た上で、パリの成瀬とベネディットのもとに集められていた様子もうかがえる。

「和田日記」では、8月30日と9月20日に松方とのデュラン=リュエル画廊の訪問の記述がある。8月30日の記述では、目にした多数の絵のなかで「最我等の注意をひきたる」絵として、ルノワールとピュヴィス・ド・シャヴァンヌ、J. F. ミレーの《春（ダフニスとクロエ）》（M756）が挙げられ[14]、9月20日の記述では、これら3点は松方が「此前に買はれた」、さらにクールベ《フラジェの農民たち》（M317）については「我等の勧告で」購入したとある[15]。このうち《春（ダフニスとクロエ）》については、カンヴァス裏の木枠に「2857」と記されたデュラン=

fig.1
J. F. ミレー《春（ダフニスとクロエ）》の額裏に残るデュラン=リュエル画廊のラベル

リュエル画廊のラベルが残っているが、これは同画廊のニューヨーク支店の在庫番号であった[16]（fig.1）。夏の間に松方のためにパリに取り寄せられたのかもしれない。

また、購入作品の中で数の上で多くを占めるアルベール・アンドレはデュラン=リュエル画廊がパリやニューヨークでプロモートしていた画家のひとりであり、1918年から1920年にかけて同画廊で個展やグループ展が開かれていた。

カミーユ・コロー《漁夫》（M288）については、作品詳細を説明するためにベネディット気付で同画廊が松方に送った7月19日付の手紙がベネディット資料の中に残っている。そこでは、作品の長いディスクリプションに続き、地方の個人コレクションの所蔵であったために画家のカタログ・レゾネには収録されていないが、真正性についてはその編者モロー=ネラトンの断言を得ていることが説明されている。

> 「われわれはこのコロー作品をモロー=ネラトン氏に見せました。彼はこの絵を知りませんでしたが、躊躇なく、それが紛うことない本物であることを断言しました。この絵に関して彼の記録資料となるように写真を渡しておきました。／したがいまして、この絵がコローの作品であることは間違いありませんし、私がこのことを100パーセント保証いたします。」[17]

ベネディットという指南役の存在が大きいとはいえ、松方の作品購入においてもカタログ・レゾネという学術的な裏付けが一定の役割を果たしていた点は目を引く。こうしてデュラン=リュエル画廊においては、前年から交渉を始めていた作品に加え、現地で提案され、実際に目にした作品などを加えながら、松方は14点の作品の購入を決めていった。ロダン美術館への作品搬入はこの年の末、12月15日頃におこなわれた[18]。

ジョン・レヴィ画廊

ジョン・レヴィ画廊はニューヨーク5番街とパリのヴァンドーム広場に店を構えた老舗画廊であり、オールドマスターから同時代絵画まで手広く扱っていた。この画廊の名前は松方の購入先としては従来あまり言及されてこなかったが、重要な購入がなされている。さらに今回、ベネディット資料とノードラー画廊のアーカイヴなどを照合したところ、ほかの有力画廊との協力関係も浮かんできた。

INHAのベネディット資料には、11月18日付の送付状[19]とともにベネディットへ送られた写し（« les copies des factures »）と考えられる同画廊の7月分と9月分の松方宛の請求書が残っている。［資料1-2］

レヴィ画廊での購入については、この年の終わりにノードラー画廊のパリ・ニューヨーク支店間の通信の中に興味深い言及がある。

> 「松方はレヴィに支払いをしたはずです。レヴィがG. ベルネームとバルバ

ザンジュに対して、彼らのために彼が売却したすべての絵に対する支払いをしましたので。」[20]（1921年12月13日）

ジョルジュ・ベルネーム画廊とジョルジュ・バルバザンジュ画廊はいずれもパリで近代絵画を扱っていた重要な画廊として知られる。後述するように、前者からは、この件とは別に松方は多数の作品を購入している。また、後者の方は、1923年に松方がコペンハーゲンのウィルヘルム・ハンセンのコレクションを購入する際の仲介役ともなっている。

上記の11月18日付の送付状によれば、7月分の支払いについては、松方は「パリを出立する前に」自分で済ませていた[21]。わかっている限りでは、レヴィ画廊に対する支払いで1921年12月以前に完了しているのはこの7月分のみである。請求書の内訳はクールベ、アルベール・ベナール、ジャン＝ルイ・フォラン、ゴーガンの作品等で総計101,000フランである。このうち、ゴーガンのカタログ・レゾネによれば[22]、少なくとも《シュフネッカーの家族》（M495）は1918年にベルネーム画廊が入手していた。

ゴーガンについては、9月の請求書で6点が追加され、計7点が購入されている。松方コレクション全体のゴーガン作品20点（M485-504）のなかでもこの数は顕著である。7月に松方がレヴィ画廊を訪れた際、まずは1点の購入を決めつつ、この画家に関心があることを伝えていたのかもしれない。これを受けたレヴィを窓口として、ヴァカンスが明けた後、ほかの画商たちが持ち寄った作品、あるいは互いに持ち合っている作品が売却された可能性が考えられる。

ここで思い出されるのは矢代の回想である。松方が画廊でゴーガンを見たいといったところ、あっという間に情報が広まり、パリの画廊はおろか、「ロンドンやベルリンからも目新しいゴーガンが到着するという有様」だったという[23]。「和田日記」によれば、矢代は、松方が9月2日にレヴィ画廊を訪れて「七、八点」のゴーガン作品を見た際に同行したひとりである。この日の同行者は多数で、松方と和田、矢代のほか、画家の橋本関雪と成瀬もいた。和田は、とくに「*Souvenir de Tahiti*」、「*Les baigneuses*」、「Gauguinの自画像半身図」を「取分け面白きもの」として描写しているが、その内容は、9月10日付の請求書2枚目に記載された《ヴァイルマティ》（M498）、《海辺の水浴の女たち》（M502）、《スレヴィンスキーの肖像》（M494）と一致する。

また、9月10日付の請求書におけるマネ《ビールジョッキを持つ女》（M689）についても、ノードラー画廊のロンドン・ニューヨーク支店間の通信の中で、ジョルジュ・ベルネームから聞いた話として、松方がバルバザンジュから買ったと記されている。

「松方氏がモネ自身から4メートル幅の絵を200,000フランで買い、バルバザンジュからはわれわれのマネの《ビールジョッキを持つ女》のスケッチを300,000フランで買いました。彼には、われわれが付けている価格では作品を見せないほうが賢明だと思います。」[24]（1921年10月14日）

9月10日付の請求書は3つに分かれており、このマネ作品とゴーガン4点を含む2枚目が440,000フランと最も高額であるが、個々の作品の価格は記されていない。一方、ロダン美術館で保管されていた松方コレクションの作品リスト[25]に記されたこのマネ作品の金額は、350,000フランであった。差額の50,000フランはレヴィの取り分とも考えられるが、そもそも双方の記憶にしたがった会話の情報だけに価格はおおよそのものだろう。幅4メートルのモネ《柳の反映》(M788)のリスト上の記載金額は150,000フランであった。

同じく9月10日付の請求書に含まれるクールベ《波》(M331)も、画家のカタログ・レゾネによれば、1919年12月にジョルジュ・プティ画廊で開かれた匿名の競売でバルバザンジュが購入したものである[26]。また、3点のマティス(M729~731)についても、画家のカタログ・レゾネによれば、1920年から1921年頃の来歴にベルネーム画廊の名前がある[27]。現時点では資料的な裏づけはないが、松方がレヴィ画廊で購入した主要な作品の多くの実際の売主はベルネームとバルバザンジュであった可能性が高い[28]。

「和田日記」では、ジョン・レヴィ画廊は8月29日、31日、9月2日、6日、9日、14日と連続して登場しており、和田は松方とともに最も頻繁に訪れている。9月2日の記述についてはすでに述べた通りだが、8月29日の記述では、上述のクールベ《波》のほか、ゴーガン《ブルターニュの二人の子供》(M493)、ホイッスラー《女の肖像》(M1124)と考えられる作品を「松方氏購求せられたり」とある[29]。これらは9月10日付の請求書の3枚目の内容と合致している。作品を一通り見た後、購入作品がまとめられたのだろう。なお、14日の訪問では、昼食時で画廊主に会えずじまいだったようである[30]。

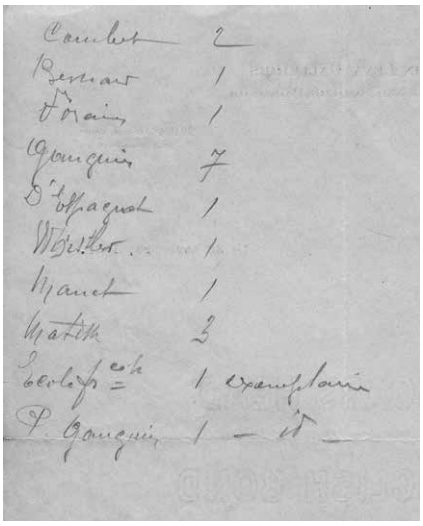

Courbet 2
Bernard 1
Vlaminck 1
Gauguin 7
Odilon Redon 1
Whistler 1
Manet 1
Matisse 3
Berthe Morisot 1 exemplaire
P. Gauguin 1 — id —

fig.2
ジョン・レヴィ画廊からレオンス・ベネディット宛の1921年11月23日付の手紙の裏面のメモ
Bibliothèque de l'Institut national d'histoire de l'art, Fonds BCMN, BCMN Ms 375 (6,5,3) ©INHA

レヴィ画廊での購入作品17点は11月後半にロダン美術館に搬入された。同画廊からベネディット宛の11月23日付の手紙には、松方が購入した作品を輸送したこと、同封の作品リストが提出した請求書の内容と一致しているか確認して署名してほしい旨が記されている[31]。実際にこの手紙の裏には、手書きで作家名と作品総数が書き込まれており、収集の現場を垣間見せてくれている(fig.2)。

ジョルジュ・ベルネーム画廊

しばしばベルネーム・ジュヌ画廊と混同されるジョルジュ・ベルネーム画廊は、20世紀前半のパリでモダンアートを扱った重要な画廊で、後述するローザンベール画廊と同じくラ・ボエシー通りに位置した。

INHAのベネディット資料には、同画廊から松方宛の9月分4件の請求書が残っている。[資料1-1]　送付状が特定できないため、詳細は不明だが、上述のデュラン=リュエルの例のように、松方が了承して返送したものか、あるいはベネディットに直接送られてきた写しと考えらえられる。

9月12日付の請求書に記載された作品のうち、マネ《闘牛士》(M690)については、ロンドンから搬出される旨が特記されている[32]。前半のロンドン滞在中に松方はこの作品を見ていたのだろうか。いずれにせよ、年末になって

も作品はそのまま置かれており[33]、後半のロンドン滞在中にも現地で実見することは可能であった。

また、同画廊からベネディット宛の11月17日付の手紙では、「ご所望の通り、松方氏が購入した絵画群の［支払いの］写し（«le Duplicata des tableaux achetés par Monsieur Matsukata »）を送ります」と記され、後ろにはタイプライター打ちの作品一覧が続いている[34]。この一覧には、上記の9月分の請求書の記載作品のほかに、ゴーガン《果樹園（Le verger）》（M503）と《刈り入れ（La moisson）》（M504）（合わせて55,000フラン）、ジャン・ピュイ《アトリエ》（M896）（5,000フラン）が追加されている。このゴーガン2点については、現在知られている松方コレクションのどの作品リストにも含まれておらず、詳細不明である。なお、この作品一覧の価格総計の箇所には鉛筆の書き込みがあり、461,000から、この2点分の金額と等しい55［000］を引いて、406,500と計算されている。実際、請求書［資料1-1］の記載額から、赤鉛筆で取り消し線が書かれた関税分（9,000と76,000）を引きつつ、上述のピュイの価格（5,000）を足すと、総額は406,500となる。また、後述するように、この総計結果は1922年初めに成瀬の手紙に記されていたこの画廊への支払金額と一致する。これら2点の支払いは別途なされたのか、あるいは何かの理由で購入がキャンセルされたという意味だろうか。今後さらなる調査が必要である。

この後、ベルネーム画廊からは11月23日付のベネディット宛の手紙でピュヴィス・ド・シャヴァンヌの素描4点が提案されているが[35]、こちらについては購入された形跡はない。

ベルネーム画廊は、夏の終わりに和田が松方と再会してから「第一に見物せし家」で、「和田日記」には8月29日、9月3（ただし、開店前で入店できず）、14、19日に松方との同行の記述がある。松方の購入作品に関する情報はあまりないが、9月19日の日記には、松方たちと同画廊で見た絵のなかで、「BonnardのLampeの下の図、白布の卓を前にしたContre-jourの女の図、及湖畔?の風景の三枚は佳い」と記されている[36]。これらは、同日の9月19日付の請求書における《カード遊び》（M71）[37]、《昼食の後》（M70）、《海》（M69）のことだろう。ベルネーム画廊からは9月12、14、17、19日の日付をもつ請求書が出ているが、少なくとも14、19日については、松方はその都度、その場で購入を決めていった様子がうかがえる。

ポール・ローザンベール画廊

ポール・ローザンベール画廊は、20世紀前半のパリでピカソやブラック、マティスなどを先駆的に扱った最も重要なモダンアートの画廊の一つとして名高い。

INHAのベネディット資料には、ローザンベール画廊から松方宛の、請求書の内容確認を依頼する内容の1921年11月10日付の手紙が残っている。ここでは、次のように記された後、3つに分けた11点の作品と価格の一覧が続き、最後に、デュラン=リュエル画廊の例と同様、「承諾の上（“with your agreement”）、成瀬へ返送してほしい旨が記されている。

「成瀬氏から、私どもがあなたにお売りした絵の請求書を再送してほしいと頼まれました。／これに従い、9月20日付の私どもの請求書のご確認をお願いしたく存じます。」[38]

言及された9月20日付の請求書の現所在は不明だが、この手紙の中に一覧として記されていた内容は［資料1-1］に記した。ローザンベール画廊での購入作品には、松方コレクションにおける唯一のピカソの油彩画として知られる《座る女》（M856）や、ヴァン・ゴッホ《アルルの寝室》（M515）など重要作品がそろっている。それゆえに、戦後の松方コレクション返還の際には、多くがフランスに留め置かれることになった。

とくに《アルルの寝室》については、返還交渉に協力した矢代が「私自身が松方さんの不興を買ってまで執拗く購入を頼んだ」作品として回想している[39]。矢代は松方に同行したローザンベール画廊でこの作品に魅せられ、「稀代の傑作で、これはどうしても日本に買って下さい」とせがむ。そのときはうるさがる様子の松方だったが、後で知らぬ間に購入してくれていたのだという。「和田日記」によれば、矢代は8月31日、9月3日に松方たちとこの画廊を訪れているが、この日付の日記に和田は《アルルの寝室》に関する記述を残していない[40]。一方、矢代は同行していないが、成瀬夫妻と朝日新聞の坂崎坦が加わる9月14日の松方との訪問時の記述では、和田はこの絵を目にし、「Van Goghの傑作の一」と称賛している[41]。この後、9月20日分の請求書の中にこの作品は記載されることになる。

画商との駆け引きの機微を知っていた松方は、ローザンベール画廊で矢代とこの作品を目にする前に、すでに和田たちとも見ていて彼らの賛辞を聞き、その価値を十分わかっていたからこそ、うるさがる素振りを見せたのだろうか。あるいは、矢代との訪問の後、和田たちの反応も冷静に確認した上で、購入を決めたとも考えられる。だとすれば、大勢の日本人を引き連れた松方の画商巡りには、作品選定にあたって、できるだけ多くの見解を参考にしようという真意を見ることもできる。

ベルネーム・ジュヌ画廊

ベルネーム・ジュヌ画廊は、アレクサンドル・ベルネームが1863年にラフィット通りに開いた画廊に始まり、20世紀初頭には息子二人がマドレーヌ大通りに「ベルネーム・ジュヌ兄弟」画廊を設立し、印象派やナビ派の画家たちなど近現代絵画を扱っていた。

INHAのベネディット資料には、同画廊の7月、9月、11月分の請求書が残っている。［資料1-1］　初回はドニ《踊る女たち》（M385）（10,000フラン）に対する7月9日付のものである。9月分は2件あり、7日付のものにはセザンヌやヴァン・ドンゲン、マティスが記載されている。11月10日付の請求書はこの9月7日付の請求書と同内容であるため、11月16日付の送付状とともに送られた「松方氏が私どもから購入した10点の絵の請求書の写し（« la copie de la facture »）と考えられる[42]。セザンヌの水彩6点のうち、《永遠の女性》（M1489）が書き落とされているが、総額は変わらない。

7月分のドニ《踊る女たち》に関しては、ベネディットがドニに宛てた6月29日付の手紙で、「私がベルネームのところで見つけたあなたの絵のひとつ、白い服を着た背の高い若い女たちの大きな絵」を松方が購入したと記されている[43]。したがって、パリ到着早々、6月中に松方はおそらくベネディットとともに同画廊を訪れていたことがわかる。

また、ベネディット資料の中には請求書は残っていないが、7月中も同画廊からの購入が続いている。ベネディットは鈴木商店宛の8月3日付の手紙の草稿で、ドニ《踊る女たち》を含む9点を挙げて、「松方氏がパリに滞在中におこなわれた作品購入のため」の230,000フランの支払いを求めている[44]。これに対して鈴木商店から8月9日付で小切手が届けられた[45]。9点のうち、ベルネーム・ジュヌ画廊からの購入作品は4点で、計60,000フランである[46]。内訳は、上記のドニ作品のほか、グザヴィエ・ルーセル《酩酊するシレノス》(M951)、ウジェーヌ・カリエール《母性愛》(M210)、リュシアン・シモン《結婚式》(M990)である。ベルネーム・ジュヌ画廊からは、これら4点の支払いに対して、9月14日付の領収書が出ている[47]。[資料1-1]

カリエールとシモン、そしてドニは、前年からベネディットが松方のために購入していた作家である。ナビ派の一人であるルーセルはこの作品以外には松方コレクションとして知られている作品はないが、ベネディットは松方分と並行してリュクサンブール美術館のためのルーセル作品の購入も進めていた様子がある。7月9日付の請求書の送付状の後半には、「ルーセルの絵については、リュクサンブール美術館のための5,000フランの作品であることは承知しています」と続いている[48]。これは1921年8月12日に購入され、8月5日頃に同美術館に搬入されたという《ディアナ》(現在はオルセー美術館の所蔵)のことだろう[49]。

「和田日記」では、同画廊への訪問は8月31日、9月6日に言及がある。9月7日付の請求書はこれらの訪問に続くものとなるが、和田の興味を引く作品はなかったのか、具体的な記述は少なく、マティスにいたっては、「稍作に落ちて真摯なる点を見出し得ぬを遺憾とす」とも記されている[50]。

ノードラー画廊

2011年まで存続していたノードラー画廊は、1848年にグーピル画廊が開いたニューヨーク支店を始まりとするアメリカの老舗画廊である。これを率いたマイケル・ノードラーがグーピルと連携しつつ、パリやロンドンにも支店網を広げていった。通信や売買の記録をはじめとする同画廊のアーカイヴは現在、ロサンゼルスのゲティ研究所に保管されている。

INHAのベネディット資料には、同画廊からベネディットに宛てた1921年11月17日、22日の手紙が残っている。前者は、松方宛の11月10日付の請求書の写し(« duplicate de la facture du 10 Novembre »)の送付状であることが文面から読み取れるが[51]、この請求書の写し自体の現所在は不明である。一方、この手紙の送付と同じタイミングでロダン美術館への作品搬入もおこなわれたようで、同封の作品受領証(« le reçu »)にサインの上、返送してほしい旨も記されている。後者の11月22日付の手紙は、内容から、ベネディッ

トから返送されたこの作品受領証の受け取りの通知と考えられる[52]。国立西洋美術館が所蔵する1921年11月10日付の作品受領証［資料3］はおそらくこのときのものである。文末に1921年11月17日の日付とベネディットのサインがあり、「東京（日本）の美術館へ送付予定の上記の絵画群を受領」と手書きで記されている。

松方はパリに到着して以来、ノードラー画廊にかなり頻繁に、そして気軽に足を運びながら、作品を選んでいった様子がうかがえる。1921年9月15日付のノードラーのパリ・ニューヨーク支店間の通信では、手紙の冒頭で、松方が今朝2人の友達とやって来て長く過ごし、彼から20点のモネを買った話を聞いたこと、モネ3点（《クルーズの河》（M785）、《陽の中の柳》（M769）、《陽を浴びるポプラ》（M777）、およびアルフレッド・ロール《夏の日》（M934）を松方のために特別価格でリザーヴしたことなどが報告されている[53]。モネの作品数は、画家から購入した作品とほかの画商からの購入作品を合わせた概数だろう。また、松方と長居をしていた友人たちとはおそらく和田と坂崎である。「和田日記」には――日にちにずれはあるが――9月14日の記述に、和田と坂崎が松方に同行してノードラー画廊を訪ね、モネ《雪のアルジャントゥイユ》（M775）やロール《夏の日》、カロリュス=デュラン《母と子（フェドー夫人と子供たち）》（M203）などを見つつ、画家ウィリアム・ブーグローの母への情愛をめぐる話を聞くなどして過ごした様子がある[54]。

面白いことに、上記のノードラー画廊の通信の後半に再び「松方氏」に関する報告がある。内容は、冒頭の文を書きとらせた後に松方が再訪し、上述の4点に加え、モネ《ジヴェルニーの霧》（M783）も買うことにしたこと、同じくモネ《雪のアルジャントゥイユ》の価格を知りたがっていること、カロリュス=デュランの《母と子（フェドー夫人と子供たち）》も買うだろうというものである。最後の作品に関しては、モデルとなった画家の娘のフェドー夫人に価格を問い合わせていることから、委託作品と考えられる。

松方のパリ滞在の終わりも迫る中、購入作品の選定はぎりぎりまで続き、絞られていったらしい。9月21日にロンドンへ出立する松方を見送りに行った和田の証言によれば、松方はパリの北駅から12時発の列車に乗った[55]。一方、ノードラー画廊からは、グランド・ホテル246号室の松方宛に同じく9月21日付の手紙が送られていて、昨日の午後に不在にしていたことへの詫びとともに、購入作品一覧と上記のカロリュス=デュランとモネの最終価格の情報が記されている[56]。さらに、7月の段階で購入を決めていたエンネルの委託作品も追加されている[57]。果たして松方はこの手紙を受け取ることができたのだろうか。

この後、ノードラーのロンドン・ニューヨーク支店間通信によれば、松方は12月3日に出航のアキタニア号でロンドンからニューヨークへ向かう[58]。帰路上のニューヨーク滞在中にも、松方はノードラーのニューヨーク支店で、クールベの《スイスの山々》[59]を400ドル（当時のレート、1ドル=約12フランで[60]、約4,800フラン）、《海景画》（M333）[61]を1,500ドルで1922年1月18日付で購入している。

ドリュエ画廊

ドリュエ画廊はロダン彫刻などの写真家としても知られるウジェーヌ・ドリュエ

が1903年に開いた同時代作品を扱う画廊で、1916年にドリュエが死去した後はその妻が引き継いだ。

INHAのベネディット資料には、ドリュエ画廊からは、4点のアルベール・マルケ作品のための15,800フランの支払いに対する受領印が押された1920年11月15日付の請求書のほか、ドニ作品14点を中心とする計18点が記載された日付なしの4件に分かれた請求書（表紙付き）が残っている。［資料1-1］

ドニは松方が関心を示していた画家のひとりであり、前稿でも触れた通り、渡欧前からベネディットとともに作品購入の準備を進めていた。

マルケ4点に対する支払いは、1921年12月末頃から1922年1月初めにかけて進められた。ベネディットは鈴木商店に宛てた1921年12月27日付の手紙（手控え）で、ドニ本人から購入された5点の油彩と20点の素描とともに、この4点の支払いのための送金を依頼している[62]。年明けにドリュエ画廊からは代金受領を知らせる1月13日付の手紙がベネディットに送られた[63]。

上記の日付なしの請求書のうち4件目はこのマルケ4点に対するもので、「支払い済み payé」と記されている。したがって、これらの請求書は1922年1月13日以降にまとめられたものとみなせる。なお、ゴーガン3点とマルケ1点が記載された2件目の請求書の小計は78,000だが、表紙には75,000と記されている。後述の通り、成瀬とベネディットが予定していたドリュエへの支払い金額はこの表紙に記された3件分の185,300フランである。これは値引きを意味するのか、別に支払いがあったということか、あるいは単なる誤記かは不明である。

ドニ作品を中心とする同画廊からの購入作品は、10−11月のドニ展出品の後、12月13日にロダン美術館にまとめて搬入されている[64]。

ジョルジュ・プティ画廊

ジョルジュ・プティ画廊は19世紀末の印象派絵画の市場においてデュラン=リュエルと競った老舗画廊である。1920年のジョルジュ・プティの死後はエティエンヌ・ビニュとベルネーム・ジュヌ兄弟に買収された。

INHAのベネディット資料には、モローの油彩3点と水彩3点を記載した11月10日付の請求書の写し（« Duplicata »）が残っている。［資料1-2］　また、これに先立って、同画廊からはパリの成瀬宛に、「10日ほど前、松方氏が私どもの画廊で、6点の「ギュスターヴ・モロー」の絵を52,000フランで」買ったとして、支払いや輸送の詳細を問い合わせる9月27日付の手紙が送られている[65]。

矢代によれば、モロー作品の購入は成瀬の好みにしたがったものだという[66]。「和田日記」には9月9日に松方と成瀬の3人でプティ画廊を訪問し、モローの「油画二枚、水彩四枚」を見た記述があり、和田は特に《ピエタ》（M810）を「jewelなり、宝玉なり」と絶賛する言葉を残している。請求書と見比べると、油彩と水彩の数が合わないが、《ヴィーナスの誕生》（M812）を水彩と見間違えたのではないか。

なお、この《ヴィーナスの誕生》の価格については、請求書には4,500フランと記されているが、ほかの油彩2点と比べて極端に低く、水彩よりも安い。

一方、請求書上の作品6点の価格の総計は44,500フランとなるが、上記の通り、プティ画廊が成瀬に宛てた9月の手紙ではモロー6点で52,000フランと記されていた。後述の通り、成瀬とベネディットが予定していたプティ画廊への支払い金額も52,000フランである。この差額の7,500を4,500にプラスした12,000フランが正しい価格の可能性がある。

プティ画廊からの購入作品のロダン美術館への搬入は11月末頃におこなわれた[67]。翌1922年の初めに、同画廊からさらにピエール・モンテザン2点が購入され、2月2日に搬入されている[68]。この2作品については、請求書はベネディット資料の中には残っていないが、1922年1月21日付の手紙の草稿でベネディットが鈴木商店に支払いを求めている作品群に含まれている[69]。これに対して、ロンドンからは1月24日付で小切手が送られた[70]。

アラール画廊

キャプシーヌ通りに位置したJ.アラール画廊の詳しい情報は見つけられなかったが、ゲティ研究所に在庫作品を含む写真アルバムが保管されている[71]。

INHAのベネディット資料には、アラール画廊の7月11日と11月10日の購入分をまとめた11月15日付の請求書の写し（« duplicata de la facture »[72]）が残っている。［資料1-2］　ロダン美術館への作品搬入はその翌日11月16日におこなわれた[73]。

この画廊での購入作品はシャルル・コッテ作品9点を中心とする15点である。ベネディットはオリエンタリスト協会などを通じてコッテとの交友を深め、松方のための購入においても初期から作品を買い集めていた。1920年、1921年、1923年と続けてコッテ展が開かれていたアラール画廊では、ちょうど1921年5－6月にかけてスペインやサヴォワ地方のアルプス山脈などを描いたコッテ作品の展覧会が開かれており、カタログの序文はベネディットによる[74]。同画廊における松方購入作品のうち、おそらく《霧にけむるサヴォワの山》（6891、M295）、《セゴヴィアの窪地》（6979、M310）、《山の風景》（6980、M303）は同展に出品されたno.32、7、25にあたる。また、展覧会図録上で松方への言及はないものの、no.12 *Le Tage, Tolède*（《トレドのタホ河》）とno.13 *Le Tage après la pluie, Tolède*（《雨後のタホ河、トレド》）は1918年の時点でベネディットが松方のために購入してロダン美術館に保管していたコッテ作品（M313、312）の可能性がある。

「和田日記」の8月29日の記述には、アラール画廊で、「松方氏の予て購はれし画の種々を見る」として、コッテ《琥珀の首飾をした婦人》（M298）、クールベ《もの思うジプシー女》（M329）と思われる作品の描写がある[75]。11月10日付でまとめられた請求書は7月分と11月分に分けられてはいないが、7月の段階でまずはコッテやクールベなどの購入を決めていたものと考えられる。

支払い

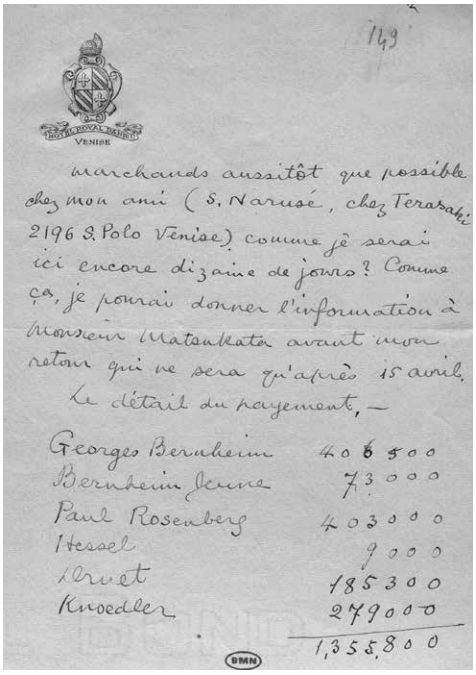
9月末に松方がロンドンに移動して以降は、事後処理を託されたベネディットと成瀬が画商との間で支払いや輸送に関する連絡を開始している。翌1922年3月、ヴェネツィア滞在中の成瀬は、パリのベネディットに宛てて、松方から

電報が届いたので小切手を送る旨を伝え、支払先の画商と金額の一覧を記している。

「松方氏の電報がようやく、ここヴェネツィアに転送され、手元に届きました。この手紙に1,355,800フランの小切手を同封いたしますので、画商たちへの清算をお願いいたします。松方氏からは、デュラン=リュエル分のみ清算は3カ月後になるので支払いを待つように言われています。彼らに対して6月末前まで待つように頼んでいただけると大変ありがたいです。／私はこちらにまだ10日ほどはおりますので、あまりお手間でなければ、画商たちからの受領証を私の友人宅宛に（S. Narusé, chez Terasaki 2196 S. Polo Venise）できるだけ早く送っていただけないでしょうか？ そうすれば、4月15日以降となる私の帰りの前に松方氏に知らせることができます。」[76]（1922年3月13日）

続いて、支払先の画廊の名前としてジョルジュ・ベルネーム（406,500）、ベルネーム・ジュヌ（73,000）、ポール・ローザンベール（403,000）、エッセル（9,000）、ドリュエ（185,300）、ノードラー（279,000）が挙げられ、それぞれの金額が列挙されている（fig.3）。

これまで見てきた通り、ここに名前を記された画商の請求書もしくは写しは、ノードラー以外、INHAのベネディット資料に含まれており、支払い済分等を除く請求金額の総額も一致する。［資料1-1］　ただし、前述した通り、ドリュエについては、おそらく1922年2月以降にまとめられた日付なしの請求書4件をまとめた表紙の記載額に準拠する。なお、ノードラーについても支払いの総額は一致する。［資料3］　エッセルとベルネーム・ジュヌからはそれぞれ1922年3月25日付で代金受領を知らせる手紙がベネディットに送られている[77]。また、ローザンベールからは同年3月30日に作品がロダン美術館に搬入されているが[78]、支払いを確認した上で搬入したのだろう。


149

HOTEL ROYAL DANIELI
VENISE

marchands aussitôt que possible chez mon ami (S. Narusé, chez Terasaki 2196 S. Polo Venise) comme je serai ici encore dizaine de jours? Comme ça, je pourai donner l'information à Monsieur Matsukata avant mon retour qui ne sera qu'après 15 avril.
Le détail du payement, —

Georges Bernheim	406500
Bernheim Jeune	73000
Paul Rosenberg	403000
Hessel	9000
Druet	185300
Knoedler	279000
	1,355,800

BMN

fig.3
成瀬正一からレオンス・ベネディット宛の1922年3月13日付の手紙
Bibliothèque de l'Institut national d'histoire de l'art, Fonds BCMN, BCMN Ms 375 (6,5,1) ©INHA

デュラン=リュエルについては、1921年7月に支払われた前金20,000フランに続いて、成瀬の記述の通り、彼の手紙の3か月後、1922年6月6日に1,250,000フランの支払いがなされた[79]。これは1921年11月10日付の請求書の記載の金額通りである。一方、この高額の購入に対する支払いの遅れの通知に対して、デュラン=リュエルの側では、神戸の松方に手紙を送り、「購入作品の支払いは昨年12月20日と約束」していたはずだと強い困惑と苦情を訴えている[80]。

1921年末に予定されていたという支払いに関連する内容は、ノードラー画廊のパリ・ロンドン支店間の通信の中にも登場する。

「松方――彼は購入作品に対して3回に分けて支払いをするつもりのよ

うです。最初の支払いは100万フランでクロード・モネに対しておこなうといわれました。次は芸術家たちに対するものとなり、3回目の最終の支払いは、12月20日頃、画商たちに対しておこなうことになります。」(1921年11月16日)[81]

モネとの間では、松方は前年からベネディットや在仏日本人の助けを借りて作品購入の交渉を開始し、本稿では触れなかったが、1921年のパリ滞在中、実際にアトリエを訪ねて数々の作品を入手した[82]。その支払いのため、この年の12月1日にジヴェルニーのモネを訪問した成瀬に同行したことについて坂崎が回想を残している[83]。成瀬もまた、モネに宛てた11月27日付の手紙の中で、昼食の誘いに感謝しつつ、「次の木曜」に坂崎と訪問させてほしい旨を記しているが[84]、これは確かに12月1日にあたる。最終的に松方のために購入されてロダン美術館に保管されていたモネ作品30点の総額は170万フランにのぼる[85]。このうち、画家本人から購入されたと推測される15点の作品の総額は確かにちょうど100万フランであった。

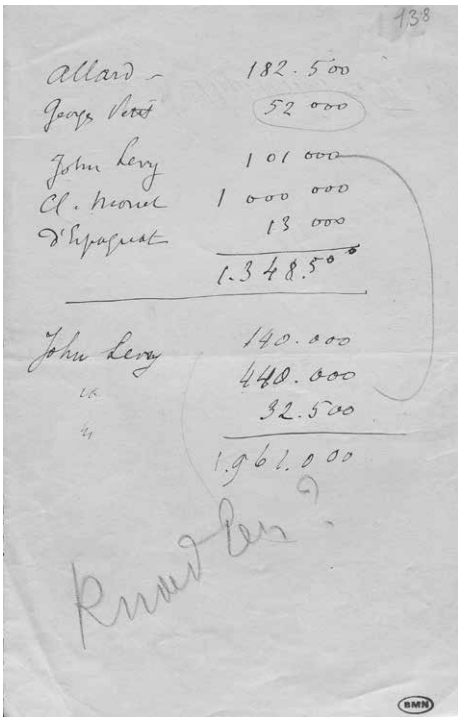


fig.4
おそらくレオンス・ベネディットによるメモ(日付不明)
Bibliothèque de l'Institut national d'histoire de l'art, Fonds BCMN, BCMN Ms 375 (6,5,1) ©INHA

これに関連して、ベネディット資料の側には、画家(モネとジョルジュ・デスパーニャ)と、上記の成瀬の手紙に記された画商たちとは別のグループの画商に対する支払い金額に関して、ベネディットによると思われる日付不明のメモが残っている[86](fig.4)。ここにはアラール(182,500)、ジョルジュ・プティ(52,000)、ジョン・レヴィ(101,000)、モネ(1,000,000)デスパーニャ(13,000)の名前と金額が挙げられたところで小計(1,348, 500)がとられ、再びジョン・レヴィ(140,000 ／ 440,000 ／ 32,500)の名前と金額が記された後、総計1,961,000[フラン]が出されている。

名前を挙げられた画商たち(アラール、プティ、レヴィ)の請求書の写しは、本稿で見てきた通り、INHAのベネディット資料に含まれ、1月末に支払い済みのプティ画廊のモンテザン分以外、金額も一致する。[資料1-2]　一方、ボンヴァン4点に対するタンプレール画廊の2月9日付の請求書分[資料2]は含まれていない。このことから、メモの作成時期は、成瀬の3月の手紙に先立つ、1922年1月末から2月初頭頃と考えられる。

画家については、モネへの支払いは上述の通りである。デスパーニャについては、ロダン美術館に保管されていた作品リストの中に6点が収録されているが、そのうちデュラン=リュエル画廊から6,000フランで購入された《浴女》(M447)、ジョン・レヴィ画廊から5,500フランで購入された《風景》(M451)以外の4点には価格の記載がない[87]。また、ベネディットと鈴木商店の間の支払いに関する通信の中にも言及はないようである。したがって、これら4点は画家本人からまとめて13,000フランで購入された可能性が考えられる。

INHAのベネディット資料の中に、1921年下半期の松方の作品購入に関係する資料が残る、すなわちベネディットと成瀬が1921年秋以降、松方に代

わって支払いを進めた画商たちについては、上記の成瀬の手紙に記載されたグループ（資料1-1）とこのメモに記載されたグループ（資料1-2）で基本的にカバーされている。各画商への支払いが正確にいつ完了したのかを知るにはさらに詳しい調査が必要だが、まずはメモの支払いが遂行された後、上記の成瀬の手紙に記された画商たちへの支払いが続いたのではないだろうか。

以上、画商への支払い関係の資料にもとづきつつ、松方とベネディットがパリの数々の有力画廊で精力的に作品を購入した1921年の様子をたどってきた。INHAのベネディット資料とノードラー・アーカイヴや「和田日記」などの情報と照合しつつ、請求書の日付や書き込みなどを細かく見ていくことで、従来知られていた8月末から9月にかけての画廊めぐりに加え、6月にパリに到着してから7月にかけての松方の収集の様子も明らかになった。さらに松方を取り巻く画商たちの舞台裏の動向にも新たな光をあてることができた。この詳細については、さらに調査を深めることで、表には見えにくい画商たちの関係性やネットワークを理解するための興味深い情報がもたらされることが期待できるだろう。

INHAのベネディット資料は、1922年2月に松方が帰国した後も、ベネディットが急逝する1925年までを含む。1922年以降は、画商からの目立った購入は減る一方、1923年にかけては、質の高いフランス近代絵画で知られるハンセン・コレクションの購入に向けた交渉を進めるため、松方、ベネディット、成瀬の間を飛び交った手紙や電報が残っている。また、紙幅の都合上、本稿では言及できなかった輸送や保険に関する情報の詳細も残る。これらについては稿をあらためて紹介したい。

＊本稿で言及した松方旧蔵作品については、Mを先頭として川口雅子・陳岡めぐみ編著『松方コレクション　西洋美術全作品』（全2巻、国立西洋美術館／平凡社、2018−2019年）の収録番号を初出時に記した。

［1］陳岡めぐみ「松方コレクションとパリの画商――INHA所蔵のレオンス・ベネディット資料の紹介（1）」『国立西洋美術館研究紀要』27号、2023年、15-30頁。

［2］手塚恵美子「和田英作日記［1921年8月16日～1922年2月7日］」、『近代画説』16号、2007年、1-43頁。

［3］日本発着日については以下にもとづく。湊典子「松方幸次郎とその美術館構想について」『Museum』394号、1984年、34頁。

［4］BCMN Ms 375/6/5/1 (ff.97, 101).

［5］BCMN Ms 375/6/5/1 (f.100).

［6］Archives du Musée Rodin, Paris.

［7］Knoedler & Co. Records, 2012. M.54, Box 1176, F8, Getty Research Institute, Los Angels, CA（以下、GRIと表記）.

［8］手塚前掲論文、4頁によれば、松方は8月末にパリで和田英作と「前月ぶり」に再会している。

［9］陳岡前掲論文（2023年）、24-26頁。

［10］Archives Durand-Ruelの調査によれば、デュラン=リュエル画廊の会計帳簿にも20,000フラン受領の記録が残る。

［11］現在は個人蔵（フランス）。

［12］BCMN Ms 375/6/5/3 (f.31).

［13］Archives Durand-Ruelの調査にもとづく。

［14］手塚前掲論文、16頁。

［15］ 手塚前掲論文、24頁。なお、拙稿「松方コレクションとパリの画商――INHA所蔵のレオンス・ベネディット資料の紹介（1）」、26頁で、パリで松方のために購入された絵画のなかでおそらく最も高額の作品としてとミレー《春》を挙げたが、正しくはクールベ《フラジェの農民たち》370,000フランを挙げるべきであった。

［16］ Archives Durand-Ruelの調査による。

［17］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.17). エティエンヌ・モロー=ネラトンとアルフレッド・ロボーによるコローのカタログ・レゾネ全5巻は1905年に刊行された。その後も補遺が刊行され続けているが、このコロー作品の収録は確認できていない。

［18］ パリのデュラン=リュエル画廊からベネディット宛の1921年12月15日付の手紙（個人蔵、フランス）

［19］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.42).

［20］ Knoedler & Co. Records, 2012. M.54, Box 1176, F12, GRI.

［21］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.42).

［22］ G. Wildenstein, *Gauguin*, Paris: Les Beaux-Arts, 1964, v.I, no.313.

［23］ 矢代幸雄『芸術のパトロン』、新潮社版、1958年、34頁。

［24］ Knoedler & Co. Records, 2012. M.54, Box 1176, F10, GRI.

［25］ *Liste des œuvres peintes acquises pour le compte de M. Kojiro Matsukata et dépo[sic] sées au Musée Rodin 77, rue de Varenne à Paris*, BCMN Ms 375/6/5/1 (ff.320-332).

［26］ R. Fernier, *La vie et l'œuvre de Gustave Courbet,* Lausanne/Paris, 1978, t.2, no.683.

［27］ G-P et P. Dauberville, *Matisse*, Henri Matisse chez Bernhim-Jeune, 1995, nos.358, 393, 491.

［28］ ノードラー画廊のパリ・ニューヨーク支店間の10月28日付の通信でも、レヴィ画廊関係者と思われるJim Labeyが作品輸送について確かめるためにロンドンの松方に会いに来たことに触れ、次のように記していたる。「その主な目的は彼の購入作品への支払いはいつになるのかを知るためです。ラビーはジョルジュ・ベルネームとバルバザンジュから借りて多数の作品を売却しており、彼らが支払いを求めているのです。」（Knoedler & Co. Records, 2012. M.54, Box 1176, F10, GRI.）

［29］ 手塚前掲論文、16頁。

［30］ 手塚前掲論文、22頁。

［31］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.46).

［32］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.22).

［33］ ベルネーム画廊からベネディット宛の1921年12月14日付の手紙。BCMN Ms 375/6/5/1 (f.129).

［34］ BCMN Ms 375/6/5/1 (ff.121-122)

［35］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.47).

［36］ 手塚前掲論文、23頁。

［37］『松方コレクション　西洋美術全作品』第1巻および第2巻で、《カード遊び》（M31）の来歴には松方の購入元としてベルネーム・ジュヌ画廊が記されているが、ジョルジュ・ベルネーム画廊の誤記。

［38］ BCMN Ms 375/6/5/3 (ff.32-33).

［39］ 矢代幸雄『芸術のパトロン』、1958年、43-45、70頁。ルノワール《アルジェリア風のパリの女たち》（M917）もこの画廊で見た絵の一つに数えているが、これは矢代の記憶違いであろう。

［40］ 手塚前掲論文、15頁。

［41］ 手塚前掲論文、22-23頁。

［42］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.40).

［43］ 杉山菜緒子「モーリス・ドニと日本　松方幸次郎とレオンス・ベネディット 国立西洋美術館所蔵　松方コレクションのドニ作品購入経緯に関する資料紹介」『国立西洋美術館研究紀要』12号、2008年、32-33頁。

［44］ BCMN Ms 375/6/5/1 (f.104).

［45］ BCMN Ms 375/6/5/1 (f.106).

［46］ ベルネーム・ジュヌ画廊からの購入作品以外の5点は、モネの《ラ・ロシュギュイヨンの道》（M781）と《プティ=ジュヌヴィリエの岸辺》（M784）、ルノワール《木陰》（M918）、ピサロ《村の外れ［エラニーの秋］》（M866）、ドラクロワ《サルダナパロス》（M377）である。これらの購入や支払いに関する書類はINHAのベネディット資料には含まれておらず、今後、詳しい調査が必要である。

［47］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.26).

［48］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.15).

［49］ https://www.musee-orsay.fr/fr/oeuvres/diane-78238（最終アクセス日：2024年1月6日）

［50］ 手塚前掲論文、17頁。

［51］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.41).

［52］ BCMN Ms 375/6/5/3 (f.45).

［53］ Knoedler & Co. Records, 2012. M.54, Box1176, F9, GRI.

［54］ 手塚前掲論文、22頁。

［55］ 手塚前掲論文、24頁。

［56］ おそらくロラン・ノードラーから松方宛の手紙。Knoedler & Co. Records, 2012. M.54, Box1176, F9, GRI.

［57］ 1921年7月9日付のパリ支店の通信の中に、松方にエンネルの委託作品を25,000フランで売却したことが記されている。Knoedler & Co. Records, 2012. M.54, Box1176, F7, GRI.

［58］Knoedler & Co. Records, 2012. M.54, Box1175, F12, GRI.

［59］Knoedler Stock Book 7, Page 12, Row 6, Stock No.15011, GRI. 『松方コレクション　西洋美術全作品』第1巻ではこの作品をクールベ《スイスの風景》（M332）と結びつけているが、別作品と考えるべきだろう。

［60］Archival Currency Converter 1916–1940（https://canvasresources-prod.le.unimelb.edu.au/projects/CURRENCY_CALC/）（最終アクセス日：2024年1月7日）

［61］Knoedler Stock Book 7, Page 9, Row 10, Stock No.14691, GRI.

［62］BCMN Ms 375/6/5/1 (f.131). ロンドンからは1921年12月29日に小切手が届いている（f.132）.

［63］BCMN Ms 375/6/5/1 (f.134).

［64］BCMN Ms 375/6/5/1 (ff.127-128).

［65］BCMN Ms 375/6/5/3 (f.30).

［66］矢代前掲書、48-49頁。

［67］BCMN Ms 375/6/5/3 (f.48).

［68］BCMN Ms 375/6/5/1 (f.139).

［69］BCMN Ms 375/6/5/1 (f.135).

［70］BCMN Ms 375/6/5/1 (f.137)

［71］Series IX. Galerie Allard et Noel, Dieterle Family Records of French art galleries, 1846-1986, GRI.

［72］アラール画廊からベネディット宛の1921年11月10日付の手紙、BCMN Ms 375/6/5/3 (f.38).

［73］BCMN Ms 375/6/5/3 (ff.36, 39).

［74］*Exposition Charles Cottet* : *Espagne, montagnes*, *alpes de Savoie* : 28 mai-25 juin, 1921.

［75］手塚前掲論文、16頁。

［76］BCMN Ms 375/6/5/1 (ff.148-149).

［77］BCMN Ms 375/6/5/1 (ff.157, 158).

［78］BCMN Ms 375/6/5/1 (f.159).

［79］Archives Durand-Ruelによる調査の結果にもとづく。

［80］デュラン=リュエル画廊から松方宛の1922年4月19日付の手紙、Paris, Archives Durand-Ruel所蔵。

［81］Knoedler & Co. Records, 2012. M54, Box 1176, F11, GRI.

［82］陳岡めぐみ「松方コレクション　百年の流転」『松方コレクション』展図録、国立西洋美術館、2019年、16-17頁。

［83］坂崎坦「アイ・ライク・ユー――49年前のモネ先生訪問記」、『日仏芸術』、1925年、10頁。

［84］成瀬正一からクロード・モネ宛の1921年11月27日付の手紙、国立西洋美術館研究資料センター所蔵。

［85］BCMN Ms 375/6/5/1 (ff.328-329). ここに記載された価格を合算した。

［86］BCMN Ms 375/6/5/1 (f.138).

［87］BCMN Ms 375/6/5/1 (f.325). 《風景》の同定は価格の一致にもとづく。なお、『松方コレクション　西洋美術全作品』1巻において《風景》（M451）の来歴にレヴィ画廊の情報が抜けている。

ジョルジュ・ベルネーム画廊 Georges Bernheim 40, rue la Boëtie, Paris

資料番号	月日	年	種類	宛先／作品内訳	
BCMN Ms375 6/5/3 f.22	9/12	1921	[facture]	Doit Monsieur Matsukata	
				s. N. Manet la course de taureaux [M690]	135,000
				(ce tableau se trouvant actuellement à Londres où la livraison doit s'effectuer)	
BCMN Ms375 6/5/3 f.23	9/12	1921	[facture]	Doit Monsieur Matsukata	
				11798 Marquet [M707 or 708 or 712]	30,000
				11592 Marquet [M707 or 708 or 712]	
				s.n. Marquet [M707 or 708 or 712]	
				no. 9 Matisse [M732 or 733]	
				11948 Matisse [M732 or 733]	
				10735 Manet [M686]	30,000
					60,000
BCMN Ms375 6/5/3 f.24	9/12	1921	[facture]	Doit Monsieur Matsukata	
				11585 Courbet [M326 or 328]	45,000
				11584 Courbet [M326 or 328]	
				11819 Puvis de Chavannes [M892 or 893]	
				s.n. Puvis de Chavannes [M892 or 893]	
				plus droits de douane soit environ	9,000
BCMN Ms375 6/5/3 f.25	9/14	1921	[facture]	Doit Monsieur Matsukata	
				11983 Ingres [M580]	22,000
BCMN Ms375 6/5/3 f.28	9/17	1921	[facture]	Doit Monsieur Matsukata	
				Courbet (le renard pris au piège) [M330]	70,000
				Marbre antique	
				plus droits de douane	16,000
				Courbet (Cheval à l'Ecurie) [M325]	20,000
BCMN Ms375 6/5/3 f.29	9/19	1921	[facture]	Doit Monsieur Matsukata	
				3 tableaux par Bonnard	
				La mer [M69]	49,500
				Sous la tonnelle [M70]	
				La partie de cartes [M71]	

ベルネーム・ジュヌ画廊 Bernheim Jeune & Cie 25, Boulevard de la Madeleine, Paris / 36, Avenue de l'Opéra, Paris / 15, Rue Richepanse, Paris

BCMN Ms375 6/5/3 f.16	7/9	1921	[facture]	Vendu à Monsieur Matsukata, Tokyo	
				15216 M. Denis La Danse [M385]	10,000
BCMN Ms375 6/5/3 f.18	9/7	1921	[facture]	Vendu à Monsieur Matsukata, Tokyo	
				21664 Cézanne La table [M1492]	35,000
				21684 - La buire et le soupière [M1486]	
				21686 - En bateau [M1487]	
				21690 - Le Concert champêtre [M1490]	
				21694 - Nu [M1488]	
				21698 - En triomphe [M1489]	
				22601 Matisse Femme au divan [M728]	12,000
				22316 Van Dongen Turban bleu [M421]	26,000
				22318 -Baigneuse [M424]	
				22319 -Hall du Casino [M422]	
				22341 Jeune fille à la raquette [M423]	
					73,000
BCMN Ms375 6/5/3 f.26	9/14	1921	[quittance]	Vendu à Monsieur Matsukata, Tokyo	
				15216 M. Denis Danseuses [M385]	10,000
				22710 Roussel Bacchus [M951]	25,000
				20936 E. Carrière Maternité [M210]	15,000
				22663 L. Simon La noce [M990]	10,000
				Reçues	60,000
BCMN Ms375 6/5/3 f.35	11/10	1921	[la copie de la facture]	Vendu à Monsieur Matsukata, Tokyo	
				22319 Van Dongen Hall du Casino [M422]	26,000
				22341 -Jeune fille à la raquette [M423]	
				22316 -Turban bleu [M421]	
				22318 -Baigneuse [M424]	
				22601 Matisse Femme au divan [M728]	12,000

21664 Cézanne La table [M1492]		
21686 - En bateau [M1487]		
21694 - Nu [M1488]	35,000	
21684 - La buire et le soupière [M1486]		
21690 - Le Concert champêtre [M1490]		
		73,000

ポール･ローザンベール画廊 **Paul Rosenberg** 21, rue de la Boétie, Paris

BCMN Ms375 6/5/3 ff.32-33 11/10 1921 [invoice of the 20th September] Monsieur Matsukata

First lot	A marble by Rodin “Le douleur” from the Rouart’s collection [M1292]	8,000	
	A water-colour by Picasso “Italian woman” [M1725]		
Second lot	A painting by Pissarro “La cosversation” [M867]		
	A painiting by Pissarro “Le chemin de fer” [M868]	80,000	
	A painting by Vincent Van Gogh “Roses in the garden of Daubigny in Auvers 1890” [M514]		
	Those picture Export Duties at my expenses		
			88,000
Third lot	A painting by Gustave Courbet “Portrait of a woman holding her skirt” [M327]		
	A painting by Vincent Van Gogh “His room at Arles” [M515]		
	A painting by Toulouse-Lautrec “Woman seating in the garden of the Photograph Forest in Montmartre” [M1071]	315,000	
	A painiting by Manet “Seascape” No. 166 of catalogue Manet by Th. Duret [M691]		
	A painiting by Picasso “Woman seating in a arm-chair” [M856]		
	A water-colour by Cézanne “Sainte-Baume” [M1491]		
	This last lot, the EXPORT DUTIES on the works of the artists dead over 20 years are at your expenses.		
	Total amount		403,000

ジョス･エッセル画廊 **Jos Hesse** 26, Rue La Boetie, Paris

BCMN Ms375 6/5/3 f.34 11/10 1921 Duplicata de la facture Vendu à Monsieur K. Matsukata, Tokio

2669 Maurice Denis “Tobias et l’Ange” [M400]	9,000

ドリュエ画廊 **Galerie Druet tableaux modernes** 20, Rue Royale, Paris

BCMN Ms375 6/5/3 f.8 11/15 1921 [quittance] Doit Monsieur K. Matsukata

9629 Tableau A. Marquet “Sables d’Olonne” [M709 or 710 or 711]	2,500
9635 -do- -do- [M709 or 710 or 711]	2,500
9637 -do- -do- [M709 or 710 or 711]	2,500
9621 -do- -do- [M706]	8,300
	15,800
Pour acquit / L.Druet	

BCMN Ms375 6/5/3 f.9 Doit Monsieur K. Matsukata

	1er Facture	104,000
Relevé	2e Facture	75,000
	3e Facutre	6,300
	total	185,300
	4e Facture payé	15,800
		201,100

BCMN Ms375 6/5/3 f.10 1) 1er Facture Doit Monsieur K. Matsukata

toile Maurice Denis “Jeune mère” [M389]	20,000
7841 -do- “Terrase à Tonquidec” [M397]	6,000
9072 -do- [M390]	6,000
9263 -do- [M392]	8,000
9266 -do- [M387]	3,000
9561 - Jules Flandrin “Boston à Victoria” [M469]	5,000
9562 -Maurice Denis “Plage au Canet” [M381]	22,000
9564 -do- [M395]	12,500
9566 -do- [M396]	6,000
9570 -do- [M393]	8,000
9438 -do- [M386]	3,500
7857 -G. Desvalières “Visitation” [M402]	4,000
	104,000

BCMN Ms375 6/5/3 f.11 2)	2e Facture	Doit Monsieur K. Matsukata	
		4570 toile P. Gauguin “Bretagne” [M492]	30,000
		5156 -do- “Nature morte” [M496]	25,000
		7459 -do- “Baigneuses” [M491]	8,000
		toile A. Marquet “Nu” [M705]	15,000
			78,000

BCMN Ms375 6/5/3 f.12 3)	3e Facture	Doit Monsieur K. Matsukata	
		8745 toile Maurice Denis “Les Hotensias” [M388]	2,500
		toile -do- “Rosmapamon” [M394]	3,800
			6,300

BCMN Ms375 6/5/3 f.13 4)	4e Facture	Doit Monsieur K. Matsukata	
		toile Marquet “Sables d’Olonne” [M709 or 710 or 711]	2,500
		-do- -do- [M709 or 710 or 711]	2,500
		-do- -do- [M709 or 710 or 711]	2,500
		-do- -do- [M706]	8,300
	payé		15,800

［資料1-2］INHA所蔵 ベネディット資料

J. アラール画廊 Galerie J. Allard Tableaux modernes 20, Rue des Capcines, Paris

資料番号	月日	年	種類／宛先	作品内訳	
BCMN Ms375 6/5/3 f.37	11/15	1921	Duplicata de la facture Doit Monsieur Matsukata à Tokio (Japon) des 11 Juillet et 10 Novembre 1921		
			Tableau	6887 Monticelli “Réunion galante dans un bois” [M806]	170,000
				6854 E. Boudin “Vue de Bordeaux, quai Chartrons” [M89]	
				6749 A. Sisley “ [M1002]	
				6890 G. Courbet “Réflexion tzigane” [M329]	
				6891 Ch. Cottet “Montagnes brumeuses, Savoie” [M295]	
				6835 -do - “Vieille femme de l’ile de Sein” [M316]	
				6892 -do - “Sur la lagune, Venise” [M296]	
				6457 -do - “Marine, bateaux, sol. couchant ” [M307]	
				6893 -do - “Jne fille au collier d’ambre” [M298]	
				6894 -do - “Crépuscule sur la lagune” [M315]	
				5285 E. Carrière “Scène maternelle” [M209]	
				5286 -do- “Femme et enfant couché” [M213]	
				6568 Ch. Cottet “Deux jnes filles, Moulin Rouge” [M300]	3,000
				6979 -do - “Ravin de Ségovie” [M310]	5,000
				6980 -do - “Première neige, automne, sol. couch” [M303]	4,500
				Total francs	182,500

ジョルジュ・プティ画廊 Galeries Georges Petit Société anonyme 8, Rue de Sèze, Paris

BCMN Ms375 6/5/1 f.120	11/10	1921	Duplicata de la facture Monsieur Matsukata Doit		
				Les trois tableaux suivants par Gustave Moreau	
				20551 Salomé à la prison 42x32 [M811]	11,000
				4600 La naissance du Vénus 24x19 [M812]	4,500
				5184 “Piéta” 23x18 [M810]	14,000
				Les trois aquarelles suivantes par Gustave Moreau	
				5189 “Salomé” 21x13.5 [M1704]	5,000
				5192 “Giotto” 18x20 [M1703]	5,000
				5193 “Ste Cécile” 16x20 [M1702]	5,000

ジョン・レヴィ画廊 John Levy Galleries Ancient and Modern Paintings 339 Fifth Avenue, New York / 28 Place Vendome, Paris

BCMN Ms375 6/5/3 f.14	7/7	1921	[les copies de la facture] Monsieur K. Matsukata / Hôtel Meurice, Paris Doit		
				Tableau par G. Courbet, “Paysage en Suisse” [M332]	40,000
				Tableau par Besnard, “Le Réveil” [M51]	35,000
				Tableau par J. Forain, “La Tentation de St. Antoine”	15,000
				Tableau par Gauguin, “La Famille de peintre S”	10,000
				ensemble frs.	100,000
				1 Exemplaire “Chefs d’Oeuvres de l’Ecole Française du XIX siècle” [M3212]	600
				1 Cadre Louis XIV, pour Courbet	400
				frs.	101,000
BCMN Ms375 6/5/3 f.19	9/10	1921	[les copies de la facture] Monsieur K. Matsukata / Hôtel Meurice, Paris Doit		
				3 Tableax par Matisse [M729-731]	27,000
				1 Tableau par D’Espagnat [M451]	5,500
					32,500

BCMN Ms375 6/5/3 f.20 9/10 1921 [les copies de la facture] Monsieur K. Matsukata / Grand Hotel, Paris Doit

Tableau par Manet, “La Serveuse de Bocks” [M689]	
4 Tableaux par Gauguin, “Souvenir de Tahiti” [M498]	
“Les Baigneuses” [M502]	
“Lisière de Forêt” [M501]	
“Portrait du peintre S”. [M494]	
ensemble frs.	440,000

BCMN Ms375 6/5/3 f.21 9/10 1921 [les copies de la facture] Monsieur K. Matsukata / Grand Hotel, Paris Doit

1 Tableau par G. Courbet, “La Vague” [M331]	
2 Tableaux par Gauguin, “Paysage en Bretagne” [M497]	
“Deux petites bretonnes” [M493]	
1 Tableau par Whistler, “Miss Annie Haden” [M1124]	
ensemble frs.	140,000

［資料2］INHA所蔵 ベネディット資料

F.＆J. タンプレール画廊 F.& J. Tempelaere 36, rue Laffitte, Paris

資料番号	月日	年	種類	宛先／作品内訳	
BCMN Ms375 6/5/1 f.141	2/9	1922	[facture]	Doit Monsieur L. Bénédite. Pour le compte de Monsieur Kojiro Matsukata	
				no. 7966 F. Bonvin: Nature morte, (forme ovale)	10,000
				Ustenciles en cuivre, asperges, bouquet de fleurs sur une nappe blanche (dimesions: h.1m55 x l. 1m05) signé en bas à droite et daté 1863 [M75]	
				no. 7967 id.: Nature morte / Pot en cuivre, fromage blanc, beufs, fraises, signé en bas à droite et daté 1863 /dimensions: h.0m405 x l. 1m55) [M76]	
				no. 7968 id.: Nature morte / une oie, des pêches et un melon /signé en bas à droite et daté 1863 /dimensions: h.0m38 x l. 1m52) [M77]	
				no. 7969 id.: Nature morte / Un lièvre, des champignons et des prunes /signé en bas à droite et daté 1863 /dimensions: h.0m38 x l. 1m52) [M78]	

［資料3］国立西洋美術館所蔵

デュラン=リュエル画廊 Durand Ruel 16, rue Laffite & 11, Rue Le Peletier, Paris / 12 East 57th Street, New York

資料番号	月日	年	種類	宛先	作品内訳	
	10/27	1921	[facture]	M.Matsukata Doit		
					12021 Renoir, La Harem 1872. 155x130 [M917]	800,000
					12075 Puvis de Cavannes. Le Pauvre pecheur 105x58 [M891]	
					12313 Millet. Le printemps 238x135 [M756]	
					10576 Courbet. Paysans du Flagey revenant de la foire 210x275 [M317]	370,000
					12543 Corot. Le pecheur 46x38 [M288]	15,000
					1081 Renoir. Femme au chapeau 1891. 57x46 [M916]	52,000
					10093 d’Espagnat. Baigneuse 1912. 100x65 [M447]	5,000
					1168 Albert André. La pointe du Prophête 1917. 81x54 [M18]	22,000
					9264 〃 Poires et pêches 1909. 34x54 [M19]	
					11607 〃 Les rochers le dimanche 1918. 81x100 [M20]	
					11722 〃 Fleurs de cannas 1920. 81x65 [M16]	
					11603 〃 Le bain aux Catalans 1917. 81x100 [M15]	
					11609 〃 La petit Nice, Marseille 1918. 81x100 [M17]	
						1,265,000
					avoir son versement du 7 juillet 1921	20,000
					Soldes à payer	1,245,000

ノードラー画廊 M. Knoedler & Co. 17, Place Vendôme, Paris / 556&558 Fifth Avenue, New York / 15, Old Bond Street, London

11/10 1921 [Duplicata de la reçu] Sold to Kojiro Matsukata, Kobe, Japan	
2278 Painting by J.J. Henner “Portrait of a Lady” [M561]	25,000
6573 Painting by Claude Monet “Rivière dans la Creuse, France” [M785]	35,000
6582 Painting by Claude Monet “Poplars by sunlight, Giverny” [M769]	35,000
6705 Painting by Claude Monet “The Poplars” [M777]	45,000
6652 Painting by Claude Monet “Fog at Giverny” [M783]	20,000
6506 Painting by A.P. Roll “A Summer-day” [M934]	12,000
2302 Painting by Carolus-Durand “Portrait of Mrs. Georges Feydeau” [M203]	40,000
6506 Painting by Claude Monet “Snow-scene, Argenteuil” [M775]	67,000
Frs.	279,000

Reçu les tableaux ci dessus mentionnés intitulés à être expédiés au Musée de Tokyo (Japon)

Le 17 novembre 1921

Le Conservateur du Musée Rodin
Léonce Bénédite

＊通貨単位はすべてフランス・フラン

＊掲載にあたって、桁区切りや大文字の扱い等、一部、表記統一をおこなった。

The Matsukata Collection and Paris Art Dealers: The Léonce Bénédite Documents in the Institut national d'histoire de l'art (INHA), Part II

JINGAOKA Megumi

This article is a continuation of "The Matsukata Collection and Paris Art Dealers: The Léonce Bénédite Documents in the Institut national d'histoire de l'art (INHA), Part I" (*Journal of The National Museum of Western Art,* No. 27, 2023). Part I primarily used the letters in the INHA Bénédite materials to trace the artwork collection process from 1918 through early 1921 as recorded by the close communication between Matsukata Kōjirō (1866-1950) in Kobe and Léonce Bénédite (1859-1925) in Paris. Part II covers the period from mid-1921 through the beginning of 1922 when Matsukata was in Europe and made numerous important acquisitions via actual visits to galleries in Paris.

The reduced need for letters as communication after Matsukata arrived in Paris in June 1921 is reflected in the decreased number of letters between Matsukata and Bénédite from that period in the INHA Bénédite Documents. Conversely, the Documents include an increased number of letters, invoices, and other administrative documents related to art purchases that were sent to Bénédite by the art galleries involved. In this article, I work from the basis of these materials and use as supplementary sources the M. Knoedler & Co. gallery archives (Getty Research Institute, Los Angeles), the recently published diaries of Wada Eisaku (1874-1957), and art gallery materials in the NMWA collection to present a detailed account of Matsukata's interactions with major galleries (Durand-Ruel, John Levy, Georges Bernheim, Paul Rosenberg, Bernheim-Jeune, Druet, Georges Petit, and Allard). I have also included the invoice contents and other materials from the galleries in the appendix to this article.

Comparison with related materials and a detailed examination of document dates and contents meant that in addition to the previously known rounds of the galleries made by Matsukata from the end of August through September of that year, I have been able to shed new light on the specifics of Matsukata's collecting activities between his arrival in Paris at the end of June and through July. Further, I have clarified the details of how Bénédite and Naruse Seiichi (1892-1936) paid dealers on Matsukata's behalf from October 1921 through the beginning of the 1922. As study continues on this subject and the behind-the-scenes movements of the art dealers involved with Matsukata are revealed, we can anticipate the emergence of fascinating information that will assist our understanding of the rarely seen connections between the dealers and their network.